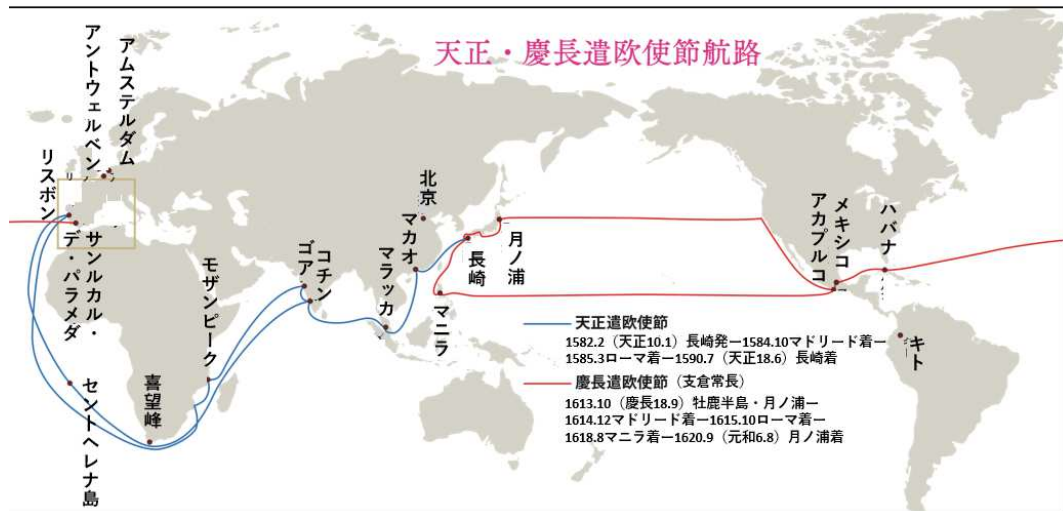


## 2. 寄稿：日本の植民地化を防いだ遣欧少年使節 (出島の杜代表 片山 仁志)

(1) NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟」が活躍した安土桃山時代。足利幕府の戦国の世であり、約100年の長い間、幕府の権威が揺らぎ大名の駆け引き、領土争いが続いた。民は困窮の暮らしを余儀なくされていた。

武将の戦いがクローズアップされる時だが、当時、キリスト教の布教という歴史的な文化革命が発生、日本が植民地化の危機に直面し、その危機を、日本の高い文化水準が防いだことは知られていない。日本人は万葉依頼、高い資質をもち、戦国時代にも文化は磨かれていた。

独断の仮説ではあるが、そのことを実証したのが4人の遣欧少年使節であり、その外交の功労と時代背景を探ってみる。



(2) 時は1500年代。ヨーロッパは、宗教改革によるプロテスタントの台頭と蒸気汽船による大航海時代が出現した動乱期。ポルトガル、スペインの領土の小国でも世界の覇者となれた。結果として、アフリカ、アメリカ、アジアの植民地化が進んだ。植民地化思想は、表向き「野蛮な国は統治ができない。代わりに我々が国を治めてやる」との傲慢な思想だが、実質的には、布教の名の下、貿易を通じた経済的搾取、究極的には「領土の割譲・拡大」を狙ったものであることは否定できない。

(3) アジアは、インドが英国に、中国が列強国に割譲されたが、次に狙われたのは、14 世紀、マルコポーロが東方見聞録で紹介した「東洋の世界最大の産銀国・ジパング」であった。

当時の日本の支配者は織田信長である。信長は、政治家としては、ジュリアス・シーザー、ナポレオンに匹敵する天才的な革命政治家ともいえる。合理主義を貫き、兵・農と政・教を分離、中世的権威を解体して近世を開扉した。

忘れてならないのは、信長が、文化政策にも開明的であったことである。宗教については「庶民が安心立命を願う宗教心は否定しない、政治に関与しない限り自由」との開闢的思想をもち、異教であってもキリスト教には寛大であった。そのため、西欧の文化（何よりも鉄砲、戦術、美術等）が移入され、日本の近代化が進んだ。一方、政治集団化していた比叡山、石山本願寺の宗教徒は壊滅された。500 年も続いた中国の戦国時代のようにならず済んだことも特筆される。

(4) 初めての宣教師として、1549 年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して以来、多くの宣教師が来日した。布教は、九州の大名も洗礼するまで広まった。ザビエルは、日本人について「この国の人は最高の国民、これほどの異教徒は今後みつけれない」と高く評価し、その後、1579 年に長崎県南島原市に来日したバリニャーノは、法王庁に「日本は文化度が高く、この国は植民地化に適さない」と報告している<sup>(注)</sup>。その証として、彼は、セミナリオ（神学校）の中で、選りすぐりに優秀な少年 4 人（13~15 歳）を選抜、信長の許可を得て、ローマに派遣した。

(注) 宣教師達が、布教の傍ら日本の状況について克明に法王庁に報告していたことが、歴史研究者若桑みどり氏の「クアトロ・ラガッティ（4 人の少年）」に詳述されている。ルイス・フロイスは「日本と西洋の文化比較」の著述で、西欧を凌ぐ日本の文化度を具体的に観察し記録に残した。両著とも、当時の日本文化を知る上で貴重な書物である。是非お読みいただきたい。

(5) 4 人は、1582 年長崎を出帆し、8 年半の歳月をかけ喜望峰経由で往復した。ポルトガル、スペイン、ローマの各都市で、破格の大歓迎を受け、2 人の法王に謁見する栄誉に輝いた。新約聖書の東方三賢人の記述「日出ずる東洋からの使者」を連想させたこともあるが、何よりも、少年達の気品、素養、礼儀作法等が素晴らしかったことによる。セミナリオで学んだオルガン演奏に現地人が驚嘆したと記されている。

宣教師達の報告が立証されたことにより、西洋の日本に対する植民地化構想は放棄された。秀吉、家康の時代に禁教政策がとられたことが独立を守ったとされるが、その前に、うねりは大きく変わっていたことを忘れてはならない。

4 人は外交官でもあった。相手の懐に飛び込み、相手を理解する、まさにグローバルゼーションを地で示した。帰国後、禁教政策の下、4 人は悲惨な人生を歩むことになったが、日本人の高い資質を西欧に認めさせた功労は計り知れない。

(6) 4 人が出立した年のわずか 4 ヶ月後、後立てとなった信長は本能寺の変で倒れた。少年使節の史実は、禁教政策の煽りを受け、明治 6 年に岩倉具視海外使節団がドイツで肖像画を発見するまで、約 300 年もの間、歴史上から封印されていた。

補：本コラムの詳細は <https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>、バックナンバーは <https://www.japa.fellowlink.jp/column/> に掲載